

宇宙のかたすみで
千葉県印西市立原山中学校 2年C組

第1詩

われら星の子 宇宙の子
海に生まれ大地に育ってきた私たちの体には
はるか百数十億年の
宇宙の歴史が刻まれている
ほら今日もどこかで小さな光が

山崎 直子さん(宇宙飛行士)

第2詩

知りたいのははじまりの瞬間 その音その色匂いと手ざわり
はじまりは いつもこころをひきつけてやまない
日本語ひらがな五十音は なぜ あい という二文字からはじまるのだろう

覚 和歌子さん(詩人)

第3詩

メロディーが流れる
今ある意味を探るとき
逢いたい人を想うとき
初めて口ずさんだ歌は忘れたけれど
生まれる前から覚えているこの旋律

印南 明美(国語科教諭)

第4詩

ボールを投げて
ボールをキャッチしたとき
そのとき野球にであった

福田 拓史

第5詩

私は毎日言葉のキャッチボールをする
球技とはちがい誰とも競わない
ときにはそのボールで相手にデッドボールをあててしまうことがある
でもそこが言葉のおもしろさの一つだと思う
このおもしろい言葉をつくったのは、誰だろう

新保 朋彬

第6詩

いつも一緒にいることがあたり前すぎて何もおもわなかった。
写真でしかあえなくなった今だから
あなたのことをよくおもいだす

鈴木 裕佳

第7詩

時間は止まらない 戻らない
ただ進むだけ...
でも ただ生きるんじゃない
ありのまま 精一杯 生きる
焦らないで ゆっくり 。

宮山 莉子

第8詩

顔を上げると青い世界
毎日こんな空だったら
毎日頑張れる気がする

手嶋 将大

第9詩

お祭りでおじさんにもらったどじょうを大切にした。
でも母さんが排水口に流してしまった
私は母さんを恨んで一日中泣いた
でも私は小さな命でも大切という事を教えてもらった
今でもどじょうさんを忘れません。

山口 襟菜

第10詩

今年は大切な友達と見た夜空に咲く大きな花火。
雨にも負けず、大きく咲き誇っていた。
来年も大切な友達と見れたらいいな。

細田 香帆

第11詩

毎朝早起きして朝練に行く準備をする私
いくら早起きしても時間が足りない
いつものように信号無視して
走る私
今日もみんなを待たせてしまう

佐藤 まなみ

第12詩

今日も一日が終わった
またみんなと会うのが楽しみだ
明日はどんな事が起きるのだろう

相澤 夕海

第13詩
わたしの幸せ
それはチーム一丸となってバスケットをし、
努力を惜しまず楽しむこと。
そしたら勝とうと思いはじめる。
きっと勝つ瞬間は私達にとって忘れない時となるだろう。

山田 彩恵

第14詩
サッカーの試合で敗けた時
悔しくて泣く時もある
でも 次は笑えるように頑張っている

吉田 成治

第15詩
家にいて暇なとき
私はギターを弾く
曲を練習してできないところがある
できるまで何度も何度も弾きまくる
だってうまくなりたいから

北林 奈菜

第16詩
毎日学校に行く
いつも、通る道だけど
四季の変化がおもしろかったりする。

山口 玲奈

第17詩
いつも部活でクラリネットを吹く
調子のいい日も悪い日もある
私の好きな音がでるとうれしくなる
私の嫌いな音がでるといやになる
今日はどんな音がでるだろう

岩崎 友美

第18詩

命が誕生すると人はうれしくなる
命がなくなると人は悲しくなる
僕は思う 命ってなんだろう

紺野 賢太

第19詩

ほめられるとうれしくなる
友達といると楽しくなる
怒られると悲しくなる
ときには怒ることもある
いろいろな思いを持って生きている

梶原 勇吾

第20詩

僕の家族は血液型がバラバラだ
ささいな事で喧嘩が絶えない
ささいな話で笑いも絶えない

茂木 航介

第21詩

毎日部活がある
走ると、とても楽しくなる
自己ベストを出すと練習したかいがある
まだまだ自分の走りは
終わることはない

市原 光貴

第22詩

卓球の練習
つまづいても 辛くなっても
ずっと前を向き続けて...

大内 恵

第23詩

どんなに疲れていても
友達とのたわいのない話で
簡単に忘れられる。
そんな友達とこれからの人生でも
巡り会っていきたい

佐竹 倫佳

第24詩

見慣れない教室に入って起こる小さなざわめき
不安と緊張が隠せなかったあのとき
大切な親友ができたあの日

高倉 莉菜

第25詩

家の中の霜柱をふむ時
ストーブの前で冷たいアイスを食べる時
ふと見た時刻が自分の誕生日だった時
私にとって大きな幸せ
こんなささいなことでも

原田 由衣

第26詩

小さい頃のやけども
今では小さく感じる
今では

越智 景子

第27詩

時はとどまることを知らない
これからの人生
小さく 退屈なんかじゃなく
大きく 楽しく過ごせるように
今のうちからコツコツと

戎 瑞輝

第28詩

大好きな休み時間
教室で騒いだり話したりして笑ってる
この時間がずっと続くといいなあ

佐々木 悠紀

第29詩

勉強や 掃除とか
つまらないことも多いけど
それでも楽しく過ごせるのは
仲間がいるから
これからも楽しく過ごすだろう

渡邊 大吾

第30詩

登校中に見えるフェンスの向こうの小学校
2年前までは私もそこにいたと思うと
なんだかとっても不思議な感じ

山口 未希

第3 1 詩

毎日汗を流して走る
成績が伸びなくて悩んだ日もあった
時には逃げ出したいと思うこともあった
それでもわたしは
走るのをやめたいとは思わなかった

齋藤 桃子

第3 2 詩

尊敬できる人がいる
大好きな人たちがいる
だから明日も笑顔がたえない

石島 優理奈

第3 3 詩

明日は何をしよう
学校の帰り道
いつもその事を考える
また楽しい事をしようと
今日も帰り道をゆく

佐野 純一

第3 4 詩

人の考えることはすべて違う
だから探してみたいくなる
そして それを取り入れていく

宮島 郁央

第3 5 詩

箱根で走った人達
道路で走った自分
努力をした人達の与える感動を
はるかに越える感動をいつか必ず与えるために
僕は今、走り出す

一ノ宮 翔

第3 6 詩

今まで考えもしなかった 空が青いそのわけを
今まで見ようとしなかった 春を待って膨らむつぼみを
今まで気づきもしなかった 一人で歩けない僕を背負って歩く親のすごさに

柴田 哲

第37詩

あなたは最近あわてんぼ
あなたが今度くるときには
私は人生の分岐点にいるだろう
もう逢えないあなたに触ろうとして
宇宙（本当のこと）なんて忘れてしまいそう

C組一同